第33巻　第1号　2019年7月31日発行（通巻53号）　ISSN 1880-4837

大阪作業療法ジャーナル

Journal of the Osaka Occupational Therapy Association : JOOTA

特集　工学系技術とリハビリテーション

Vol. 33 No. 1
Jul 2019

OTSAKA (一社)大阪府作業療法士会

大阪作業療法ジャーナル

第33巻　第1号

巻 頭 言　田丸　佳希 …… 1

特　　集：工学系技術とリハビリテーション

スイッチ操作の障害への対応　吉田　直樹 …… 2

日常生活下におけるストレス評価に向けた
ウェアラブル脈波計の開発研究　五十嵐　朗 …… 11

バーチャルリアリティ（VR）のリハビリテーションへの応用　菅野　正嗣 …… 17

上肢切断者に対する筋電義手の実際
～国内における筋電義手の過去から現在、そしてこれから～　柴田八衣子 …… 22

知っていますか？

OT が取り組むべき排せつケアについて　小林　貴代 …… 29

書評カフェ　中村　孝志・中西　英一・金森　　幸 …… 37

となりの街の作業療法士

たん歩々会　左川　大樹 …… 40

精神・発達障害の当事者が地域で楽しく暮らしていくために
～エーネン大阪の取り組み～　坪井　啓介 …… 45

スペシャル企画

第33回大阪府作業療法学会府民公開講座3（鼎談）
宗教学と作業療法学の出会い　～生きる意味をどう捉えるか～ …… 50

投稿規定 …… 62

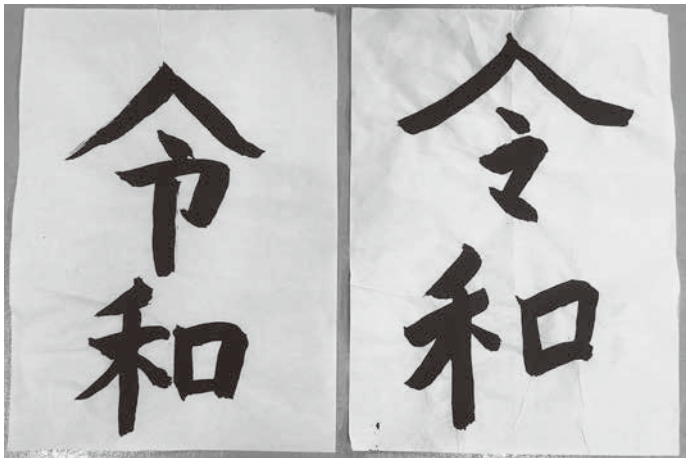
著作権規定 …… 64

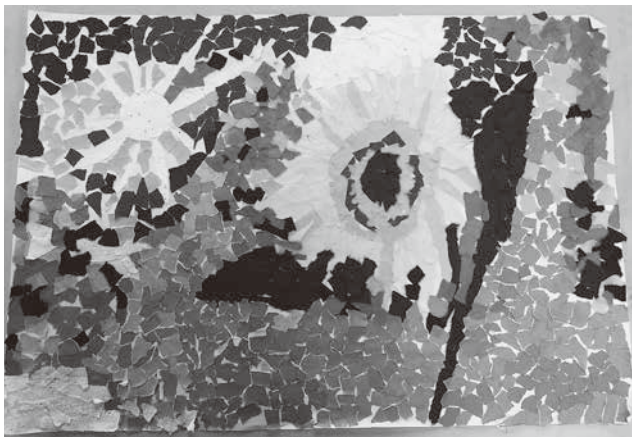
執筆要領 …… 66

投稿論文チェックシート …… 68

編集後記・部員名簿 …… 69

表紙について





「習字」と「貼り絵」

「習字」は年号の発表があった4月初めに患者さんと職員が集まって書いたもの2枚である。

「貼り絵」は当院では季節の行事や月初が近づくと机に貼り絵の下書きと折り紙が置かれる。それを個別訓練の一環で多数の患者さんが少しづつ少しづつ貼って完成されていく、そのため、紙の大きさや色合いが異なり完成される。今回の2枚は昨年作成されたひまわりと盆踊りの提灯を題材にしたものである。

少し話が変わりますが、今、来年のオリンピックの聖火ランナー募集が始まっている。一人200m を繋いで日本全国を回るらしい。

貼り絵も少しづつ多くの患者さんが関わり1枚の絵を完成させている。

このジャーナルも昭和の時代から多くの会員や関係者の御尽力で1冊1冊を繋ぎ、令和の時代と続いている。

令和最初のジャーナルの表紙にふさわしい題材と自画自賛している。

星ケ丘医療センター　加藤 敏一

巻頭言

我々の生活、作業療法士に与える工学の発展・変革

田丸　佳希
四條畷学園大学 リハビリテーション学部
作業療法学専攻

本ジャーナルの特集テーマは、「工学系技術とリハビリテーション」です。皆さんは工学系技術という言葉を聞いてどのようなイメージを思い浮かべるでしょうか？私が初めて聞いた時の印象は単純に「難しそうだな…」でした。実は“工学”と一言でいっても、機械工学・エネルギー工学・電子工学・人間工学等があり、その種類は多岐に渡ります。1970年代にはリハビリテーション工学と銘打った先端技術の開発が盛んとなり世界各国でその名を轟かせました。このリハビリテーション工学の視点には、①補装具工学（義肢・装具、車いす、動力源、人工関節等）、②運動工学（計測、評価、モデル等）、③筋神経系工学（制御、人工神経等）、④環境及び教育工学（訓練機器、リハビリ管理、移動システム等）が含まれています。こう見ると工学の知見は皆さんが関わっている現在のリハビリテーションに直接的、また間接的に深く組み込まれています。

私が作業療法士になって間もない頃の話です。ある日、寝たきりのおばあさんを担当させていただきました。そのおばあさんは盆踊り（河内音頭）で踊ることが好きだったらしく、私のリハビリの時間にはいつもその話題が出てきました。しかし、その方は下肢の麻痺と拘縮がひどく、また家族の支援を得られないために外出は困難な状態でした。どうにかしてあげたいと思った私は、ある夜、院内に許可をとりiPadで動画を見てもらったことがあります。その時、涙して喜ばれた顔を今でも忘れることはありません。それから12年の歳月を経た現在、VR（仮想現実）やAR（拡張現実）等が登場し、外部環境機器の目覚ましい発展を痛感してきました。実はこのVRの技術は1930年代に飛行機のコックピットシュミレーターとして既に利用されていた技術なんです。この技術が2016年度にゲームをはじめ、リハビリテーションにも波及し、現在は多くの施設で実用化されるようになりました。それに伴って我が国では近年、工学系技術を取り入れたリハビリテーションの介入事例数が飛躍的に増えてきました。今思うところは、あの時、私がこういった技術をもっと知っていれば、もっと患者さんの笑顔を引き出せたのではないか、そしてもっと多くの人のお役に立てれたのではないかと悔しい気持ちにもなります。このように飛躍的に進化している工学系技術は、我々作業療法士がこれまでしてあげられなかった事を叶えられる術（魔法）になると可能性を秘めています。

本ジャーナルでは、これら新たな技術を紹介するのみならず、具体的な一工夫や新たな介入方法が記されており、難病等による寝たきりの方々や、生活の阻害を感じておられる多くの方々にとっても新たな視座となるはずです。この令和の時代、「故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知る」、つまり温故知新の時代。読者の皆さんにとって日々の作業療法の中に是非取り入れてみませんか？そして多くの患者さんのリハビリテーション意欲、笑顔そして効果に繋げられると信じています。

大阪作業療法ジャーナルに広告を出しませんか

大阪作業療法ジャーナルは年2回（1月と7月）発行しています。大阪の作業療法士が学術的発表や特集などを通じ学ぶ雑誌です。大阪府作業療法士会会員（現在会員数2,500人）や大阪の作業療法学科養成校に配布され、一般にも販売されています。

広告はモノクロで A4 1ページ 3万円、1/2ページが2万円となります。

広告を希望される場合は、大阪府作業療法士会事務局までお願いします。

〒540－0004　大阪市中央区玉造2－16－8
玉造井上ビル6階
TEL：06－6765－3375
FAX：06－6765－3376
E-mail：jimu@osaka-ot.jp

大阪作業療法ジャーナル
第33巻　第1号

発行人：関本 充史
（一社）大阪府作業療法士会
〒540-0004 大阪市中央区玉造2-16-8 玉造井上ビル6階
TEL：06-6765-3375　FAX：06-6765-3376
URL：http://osaka-ot.jp　E-mail：jimu@osaka-ot.jp

出　版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793　FAX：096-386-2025

定価1000円